

作成日 2023年3月27日
改訂日 2024年1月30日

安全データシート(SDS)

製品名 D-Lux コーティング プロ カーシャンプー

1. 製品及び会社情報

製品名 : D-Lux コーティング プロ カーシャンプー
品番 : 08890-K9019
推奨用途及び使用上の制限
推奨用途 : 洗浄
使用上の制限 : 推奨用途以外への使用は禁止する
供給者の会社名称 : 中央自動車工業株式会社
住所 : 大阪市北区中之島4丁目2番30号
担当部門 : 商品開発部 研究開発グループ
電話番号 : 06-6443-5846
FAX番号 : 06-6445-8573
整理番号 : 1005-9-D

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類 : 皮膚腐食性/刺激性 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分2(中枢神経系、血液系、腎臓)
水生環境有害性 短期(急性) 区分3
※記載のないものは区分に該当しないまたは分類できない。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

H315 皮膚刺激
H318 重篤な眼の損傷
H371 中枢神経系、血液系、腎臓の障害のおそれ
H402 水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P264 取扱い後、手をよく洗うこと。
P270 この製品を使用する時に飲食または喫煙をしないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

- P302+P352+P332+P313+P362+P364皮膚に付着した場合:多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診察、手当てを受けること。汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- P305+P351+P338+P310眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- P308+P311ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。

【保管】

P405 施錠して保管すること。

【廃棄】

P501 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 :混合物
含有成分及び含有量

物質名	含有量(%)	毒劇法	安衛法	化管法	CAS No.
陰イオン系界面活性剤	10 - 20	非該当	非該当	非該当	非公開
エチレングリコール	1 - 10	非該当	該当	非該当	107-21-1
非イオン系界面活性剤	0.1 - 1	非該当	非該当	非該当	非公開
酸性雨中和剤	0.1 - 1	非該当	非該当	非該当	非公開
防錆剤	0.1 - 1	非該当	非該当	非該当	非公開
防腐剤	0.1 - 1	非該当	非該当	非該当	非公開
水	70 - 80	非該当	非該当	非該当	7732-18-5

この組成の正確な含有量(濃度)は営業秘密として非開示としています。

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、保温して安静を保ちながら呼吸しやすい姿勢で休息させる。
嘔吐がある場合は頭を横向きにして嘔吐物を飲み込ませない様にする。
気分が悪い場合は医師に連絡する。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を速やかに脱ぎ、皮膚を多量の水と石鹼で十分に洗う。
外観の異常や痛みがある場合は必要に応じて医師の診察を受ける。
- 眼に入った場合 : 清浄な流水で15分間注意深く洗う。容易に外せる場合はコンタクトレンズを外して洗眼する。
障害が遅れて現れることがあるので、必ず眼科医による診察と手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 誤えんの恐れがあるため無理に吐かせない。口腔内を水洗し、医師の診察を受ける。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : この製品自体は燃焼しない。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 屋内で漏出した場合は、窓、ドアを開けて十分に換気を行う。
漏出した場所の周辺に、ロープを張る等して関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業の際、皮膚、目、呼吸器を保護する適切な保護具を着用する。
風上から作業し、風下の人を退避させる。
こぼれた場所はすべりやすいために注意する。
- 環境に対する注意事項 : 洗浄した水等は地面や排水溝にそのまま流さない。
下水等に入り込まないように注意する。
- 除去方法 : 少量の場合は、土、砂、土砂、乾燥砂、ウエス等に吸収させ、密閉できる空容器に回収する。
多量の場合は、土砂・土のう等で流出を防ぎ、安全な場所に導いて回収する。
廃棄物は、関連法規等に基づいて処理する。

二次災害の防止法

: 漏出時は速やかに関係機関に通報する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 特になし
安全取扱い注意事項	: 製品記載の使用上の注意をよく読み、用途以外に使用しないこと。
接触回避	: 特になし
衛生対策	: 皮膚、目、呼吸器を保護する適切な保護具を着用すること。 作業中は、飲食または喫煙をしないこと。 取扱い後は、手洗い、うがい、洗顔等を十分に行い、作業衣等に付着した場合は着替えること。
保管	
安全な保管条件	: 使用するまで容器は決して開栓せず、風通しの良い冷暗所に施錠して保管すること。 直射日光、40℃以上の高温、凍結の恐れのある所は避けること。 強酸化剤から離して保管すること。
安全な容器包装材料	: 特になし。容器を移し替えないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度・許容濃度等	
	許容濃度 Threshold limit value
物質名	管理濃度
	日本産業衛生学会 (2020年度版)
	ACGIH (2019年版)
エチレングリコール	-
	TWA 25ppm STEL 50ppm
設備対策	: 屋内は全体に換気する。 換気の悪い場所及び蒸気の発生の多い場所には局所排気装置を設ける。 屋内作業場で多量に使用する時は、蒸気が滞留しないように、排気装置を設ける。 取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。
保護具	
呼吸器の保護具	: 有機ガス用防毒マスクを必要に応じて着用すること。
手の保護具	: 耐溶剤性の保護手袋を必要に応じて着用すること。
目の保護具	: 保護眼鏡を必ず着用すること。
皮膚の保護具	: 保護衣、保護前掛けを必要に応じて着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 淡黄色透明
臭い	: 微臭
融点／凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	: データなし
引火点	: この製品自体は燃焼しない。
自然発火点	: データなし
pH	: 9.1
動粘性率	: データなし
溶解性	: 水に可溶
n-オクタノール／水分配係数	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び／又は相対密度	: 1.04

相対ガス密度	: データなし
--------	---------

10. 安定性及び反応性	
安定性	: 通常の取扱い条件において安定
危険有害反応可能性	: 特になし
避けるべき条件	: 高温へのばく露
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: 特になし

11. 有害性情報	
急性毒性－経口	
製品	: 区分に該当しない。ATEmix > 2,000 mg/kg (混合物の20 - 30%は毒性が未知の成分からなる。)
酸性雨中和剤	: LD ₅₀ > 1,700-1,913 mg/kg (ラット) [原料SDS]
エチレングリコール	: LD ₅₀ > 6,140 mg/kg (ラット) [原料SDS]
急性毒性－経皮	
製品	: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
エチレングリコール	: LD ₅₀ = 9,530 mg/kg (ウサギ) [NITE-CHRIP]
急性毒性－吸入 (粉塵、ミスト)	
製品	: 区分に該当しない。ATEmix > 5.0 mg/L (混合物の20 - 30%は毒性が未知の成分からなる。)
エチレングリコール	: LC ₅₀ = 2.7 mg/L・4h (ラット) [NITE-CHRIP]
皮膚腐食性/刺激性	
製品	: 区分2
エチレングリコール	: 区分2。ヒト103人に対するパッチテストにおいて、本物質の原液0.2 mLの適用により刺激性がみられた。[NITE-CHRIP]
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	
製品	: 区分1
酸性雨中和剤	: 軽度の角膜混濁 (ウサギ) [原料SDS]
エチレングリコール	: 区分2B。ウサギに原液を適用した眼刺激性試験において、刺激性なしとの報告がある。また、液体や蒸気への1回あるいは短時間の眼へのばく露は、恒久的な角膜損傷を伴わない軽微な結膜刺激をウサギに引き起こすとの報告がある。ヒトの事故例として本物質 (濃度不明) に眼にばく露された結果、結膜のうっ血、浮腫、光反射の遅延、重度の角膜炎がみられたが4週間後には回復したとの報告がある が濃度等については詳細不明である。[NITE-CHRIP]
呼吸器感作性	
製品	: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
皮膚感作性	
製品	: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
生殖細胞変異原性	
製品	: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
発がん性	
製品	: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
生殖毒性	
製品	: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	
製品	: 区分2 (中枢神経系、血液系、腎臓)

エチレングリコール	: 区分1 (中枢神経系、血液系、腎臓)、区分3 (気道刺激性、麻酔作用) ヒトにおいては、経口摂取後の毒性影響は主として以下の3段階に分けられる。すなわち、第一段階 (摂取から0.5-12時間) : 中枢神経系への影響 (中毒、嗜眠、痙攣、昏睡) 及び代謝障害 (アシドーシス、高カリウム血症、低カルシウム血症)、第二段階 ((摂取から12-24時間) : 心臓及び肺への影響 (頻脈、高血圧、代償性過呼吸を伴う重度の代謝性アシドーシス、低酸素症、鬱血性心不全、成人呼吸窮迫症候群)、第三段階 (摂取から24-72時間) : 腎毒性 (シュウ酸カルシウム沈着、血尿、急性尿細管壊死、腎不全) である。さらに、摂取から6-14日、あるいはそれ以降において見られる影響として第四段階を置き、中枢神経系影響に加え、神経学的影響(顔面神経麻痺、不明瞭な発語、運動能力の喪失、視力障害を含む) が観察され、脳神経の損傷を示唆するとの報告もある。なお、ヒトにおける経口摂取による致死量は、約0.4-1.3 g/kg bw や1.6 g/kg bwの報告がある。吸入経路では、ボランティアによる 55 ppm の吸入ばく露試験で吸入開始 1.5 分後から喉及び上気道の痛みがあり、79 ppm 以上では、痛みが非常に激しく 1 分以上耐えられなかったとの報告がある。[NITE-CHRIIP]
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	
製品	: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
誤えん有害性	
製品	: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期 (急性)	
製品	: 区分3。水生生物に有害。
エチレングリコール	: ErC ₅₀ > 1,000 mg/L/72h (藻類Pseudokirchneriella subcapitata) [NITE-CHRIIP] EC ₅₀ > 1,120 mg/L/48h (甲殻類オオミジンコ) [NITE-CHRIIP] LC ₅₀ > 100 mg/L/96h (魚類メダカ) [NITE-CHRIIP]
酸性雨中和剤	: LC ₅₀ > 157 mg/L/96h (魚類ブルーギル) [原料SDS]
水生環境有害性 長期 (慢性)	
製品	: 区分に該当しない。(この混合物の成分10 - 20%については水生環境有害性が不明である。)
エチレングリコール	: 急速分解性あり (14日後のBODによる分解度:90%) MATC = 4.2 mg/L/7d (甲殻類ニセネコゼミジンコ) [NITE-CHRIIP]
酸性雨中和剤	: NOEC(繁殖、致死) = 28 mg/L/21d (甲殻類オオミジンコ) [原料SDS]
残留性・分解性	
製品	: データなし
エチレングリコール	: 急速分解性あり (14日後のBODによる分解度:90%) [原料SDS]
生体蓄積性	
製品	: データなし
エチレングリコール	: log Pow = 1.93 [原料SDS]
酸性雨中和剤	: log Pow = 5.01 (計算値) [原料SDS]
土壌中の移動性	
製品	: データなし
オゾン層への有害性	
製品	: データなし

13. 廃棄上の注意

許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。
容器、機械装置等を洗浄した排水は、地面や排水溝にそのまま流さない。
空容器は、内容物を完全に除去した後に廃棄する。
その他関連法規の定めるところに従う。

14. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	: 非該当

海洋汚染物質	: 非該当
国内規制	
陸上輸送	: 消防法の定めるところに従う。
海上／航空輸送	: 船舶安全法、航空法の定めるところに従う。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	: “取扱い及び保管上の注意”の項の一般的注意に従う。 容器は漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 水漏れ・横積み厳禁。
緊急時応急措置指針番号	: 非該当

15. 適用法令

化審法	: 本製品は既存化学物質の混合物に該当するため対象外
消防法	: 非危険物
毒物及び劇物取締法	: 非該当
労働安全衛生法	
危険物	: 非該当
特定化学物質障害予防規則	: 非該当
有機溶剤中毒予防規則	: 非該当
第一種有機溶剤等	: 含有していない。
第二種有機溶剤等	: 含有していない。
第三種有機溶剤等	: 含有していない。
表示対象物質	: エチレングリコール
通知対象物質	: エチレングリコール
化学物質排出把握管理促進法	: 非該当
船舶安全法	: 非該当
航空法	: 非該当
海洋汚染防止法	: 非該当
有害液体物質	: ばら積みの輸送条件に当たらない。

16. その他の情報

- 1. 配合原料メーカー発行の安全データシート
- 2. GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針
(2023年9月版、一般社団法人 日本化学工業協会 編集、一般財団法人 日本規格協会 発行)
- 3. 各関連法規
- 4. NITE 化学物質総合情報提供システム(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)

混合物である製品の危険有害性情報は、個々の原材料の危険有害性情報から推定したものです。安全データシートは、危険有害な化学製品について安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱う事業者には提供されるものであり、安全の保証書ではありません。取扱う事業者は、これを参考として自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずる必要があることを理解した上で、活用されるようにお願いします。